

# 人文知応援フォーラム 第一回例会開催

二〇二二年十月三日(木)、感染対策を完備した東京の学士会館で「人文知応援フォーラム第二回例会」が開催されました。例会にはオン、オフ合わせて三十八人が参加し、三部構成で行われました。

開会挨拶で、近藤誠一代表理事は「例会は皆さんが主役。どんな意見を交わしていただきたい。グループ討論と全体討論を通じて人文知の認識が広がり、深まることを期待している」と述べ、その後、第一部では、四、五人程度の七つのグループに分かれて活発な討論が展開されました。

続く第二部はグループ内討論を発表する全体発表。「今までとは違う人文知がネット社会から生まれる」「人類が生き残ったのは人文知があったからこそだった」「企業もはや経済原理だけではやっていけず、人文知による新たな価値観を導入している」「外にある人文知を学ぶことで、内なる人文知が価値観の多様性を認める寛容性を育む」「世

代や分野を超えた「現代の寺子屋」を地域で実践している人もいる」「手触りのある生の人文知を学ぶ機会は学校より地場にある」「各地域固有の文化を本格的に学ぶことで、科学知も含めた生きた人文知の全体像が見える」「アジア諸国との交流を行い、日本の人文知の全体的な見取り図を考え直す必要がある」など、刺激的で興味深い意見交換の成果が発表されました。

第三部では、グループ討論の発表を踏まえて、全体討論が行われました。そこでは、「ドメスティックではなく、世界の人文知に目を向けた議論をすべき」「教育費の不安があり、子供に人文知を学ばせる余裕がない。経済的なサポートも必要」「オンラインで学ぶ人文知も、リアルと形は違えども、同じ人文知である」「逆に、人文知が社会的格差の解消を阻害することもある」「多くの企業が人文知を尊重しないため、学生が人文知に時間を費やすこと



グループ討論で話し合われた内容を紹介する全体発表

がリスクになっている」といった意見が出されました。

全体討論終了後、出席していた五人のフォーラム理事から感想や謝辞が述べられ、大原謙二代表理事は、閉会挨拶で「第一回からの参加者は特別の同志。人文知リテラシーを広めていくために、一緒に何かを創って行きたい」と述べました。

例会終了後は別室で懇談会も行われ、和やかな雰囲気

の中で、「人文知は人類が不安定な時代を生き抜くために必要」「それを不要不急としたことが大きな課題」「社会や文化のあり方についての真面目な議論は非常に刺激的」といった感想も述べられました。

今後、回を重ね、例会がますます盛り上がることを期待したいと思います。

## 事務局だより

◇人文知応援フォーラムのニュースレター第1号をお届けします。今後、年3回発行し、人文知に関する様々な話題、当フォーラムの活動をお伝えする予定です。ご意見、ご感想などお聞かせいただければ幸いです。◇第2回人文知応援大会を、2022年3月12日(土)、東京の一橋講堂にて開催します。基調講演と続くパネル討論に、ノーベル生理学・医学賞を受賞された大隅良典氏にご登壇いただく予定です。詳細は追ってお知らせいたしますので、ご期待ください。皆さまのご参加をお待ちしております。◇ご入会は人文知応援フォーラムのホームページにございます「会員募集」からオンラインでのお申込みも可能です。ご関心のありそうな方にご紹介ください。

# 人文知

応援フォーラム

# 人文知

Japan Forum for the Cultivation of Insight from the Humanities

NEWS LETTER

2月

VOL\_01

2022年



新元号「令和」が、千五百年以上も昔の『万葉集』から採られて話題となったことは今も記憶に新しい。そのことは、『万葉集』に残された日本人の言語文化の所産が、今日でもなおその豊かな生命力を保ち続けていることを物語る。

## 巻頭エッセイ

# 「人文知とは何か」

美術史家、東京大学名誉教授 高階秀爾

人文知の本棚／人文知NOW／フォーラムレポート